

九州大学箱崎キャンパス跡地 グランドデザイン（案）

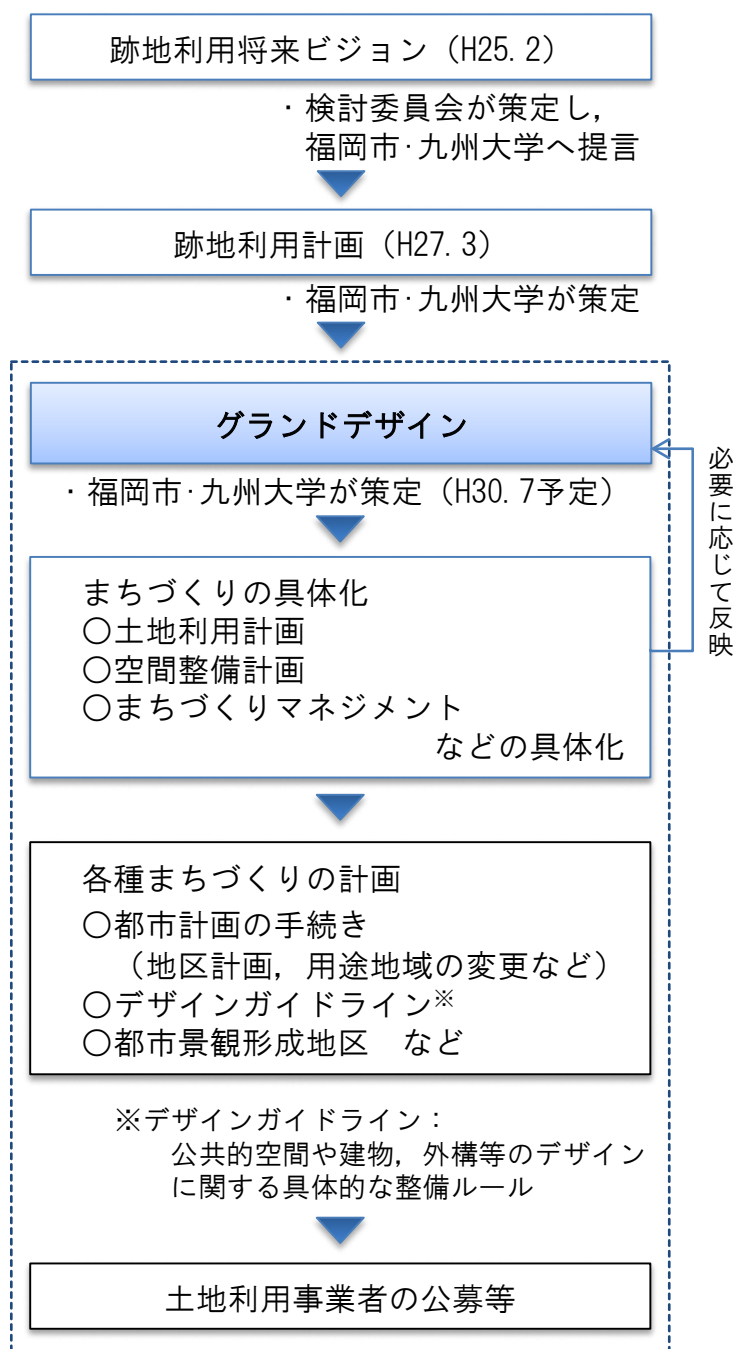
福岡市・九州大学

1. グランドデザインの位置づけ等

- グランドデザインは、跡地利用計画（H27.3策定）を踏まえ、箱崎キャンパス跡地等※において、良好な市街地形成と新たな都市機能を導入するため、まちづくりに共通する整備ルールや将来の絵姿等を示すものとする。
- また、グランドデザインは、跡地等及び周辺地域における調和と一体的なまちづくり、将来に渡って持続的に発展していくための指針とする。
- 併せて、快適で質の高いライフスタイルと都市空間を創出する、未来に誇れるモデル都市“FUKUOKA Smart EAST”については、その先駆けとして箱崎のまちづくりに関して取り組むものとする。
- 事業者からのより良い提案やまちづくりの進捗等に併せ、適宜、グランドデザインの見直しについて検討する。

※箱崎キャンパス跡地等：箱崎キャンパス跡地及び貝塚駅周辺（箱崎中学校や貝塚公園を含むエリア）

(1) グランドデザインの位置づけ



(2) グランドデザインの構成

- 1 グランドデザインの位置づけ等
 - (1) グランドデザインの位置づけ
 - (2) グランドデザインの構成
 - (3) 整備ルール等の構成
- 2 まちづくりの概要
 - (1) 箱崎の歴史
 - (2) これまでの検討概要
 - (3) まちづくりに向けた基本方針
- 3 まちづくりの全体像
- 4 FUKUOKA Smart EASTの取り入れ方
- 5 都市空間整備の方針
 - (1) 都市空間整備の考え方
 - (2) オープンスペース（広場・公園等）
 - (3) 歩行者動線
 - (4) 自動車動線
 - (5) 自転車動線
 - (6) 緑空間の確保
 - (7) 歴史の継承
 - (8) 街並み景観
- 6 都市機能配置の方向性
- 7 環境共生
 - (1) 循環型社会の形成
 - (2) エネルギーの有効活用
 - (3) 環境技術の活用
 - (4) 自然環境との共生
 - (5) その他
- 8 安全・安心への配慮
 - (1) 防災性の向上
 - (2) 防犯への配慮
 - (3) ユニバーサルデザイン
- 9 まちづくりマネジメント

(3) 整備ルール等の構成

- ・福岡市や九州大学，UR都市機構，今後参画する民間事業者などが，相互に協力してまちづくりを推進するための共通するルールとして「基本的事項」や「努力事項」，「検討の方向性」を示す。

■基本的事項：まちづくりにおいて遵守する事項

- ・法や条例に基づくもの
- ・都市計画に位置付けるもの
- ・その他

■努力事項：まちの魅力を更に高めるため努力する事項

■検討の方向性：引き続き検討が必要な事項

- ・事業者の計画自由度に配慮しながらより良い提案を引き出すため継続して検討するもの
- ・関係機関等における検討内容などを引き続き注視する必要があるもの

2. まちづくりの概要

(1) 箱崎の歴史

1960年代

■町割り

- ・唐津街道筋「町家」
少しづつなくなる
- ・市場・マーケット・映画館
- ・学生街として「本屋」
喫茶店・飲食店」並ぶ街並み
- ・漁村「集合」広がる
- ・農村「集積」

■海岸線

- ・国道3号線
「砂浜の上」
- ・海辺は埋め立て
- ・漁港が出来る

江戸時代から明治中期

■海岸線

- ・元寇防塁の海側松原
- ・名島・香椎まで砂浜

■町割り

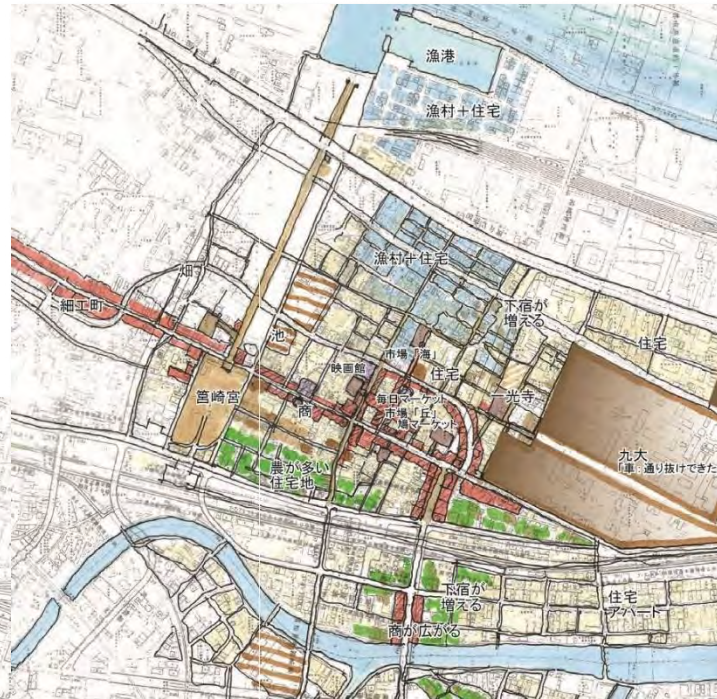
- ・唐津街道筋「町家」
- ・漁村「集合」
- ・農村「点在」

■時代の特徴

- ・茶屋「接待所」
- ・当時から寺や神社「軸線上」
- ・多々良川の方は畑

■領域

- ・宮崎宮〜光寺までで
コンパクトな領域



出典:国土地理院

923(延長元年)
宮崎八幡宮創設

1873(明治06)
箱崎小学校開校

1910(明治43)
箱崎水族館開館

1881(明治14)
箱崎に糟屋郡役所設置

1911(明治44)
九州帝国大学設置、同工科大学開設

ガス・水道引かれ

江戸以前

明治

大正

昭和

日露戦争 37.38

第一次大戦 37

クランクする軸
縦筋などが形成された「まち」

糟屋郡
蔬菜場で潤う

人力車の時代

松原があり 酒屋・醤油屋・染物屋
町家が連なる箱崎本通り 唐津街道

箱崎

海の領域
山の領域
氏子の役割
祭
豊漁・豊作を
競い合う

背割りのまちで構成された
地域の習わし・祭

細工町

馬出

江戸時代までにこの地は曲物や屋根の葺き板を作る家が多くあった。これは三方などの宮崎宮の祭具を作っていた

箱崎町茶屋「御亭」

唐津街道

箱崎:筑前国糟屋郡(福岡県福岡市東区)
唐津街道(からつかいどう)は江戸時代に整備された街道の一つ。長崎街道から分かれ博多等を経由して肥前国松浦郡唐津(現佐賀県唐津市)に至る。

九大と箱崎の町との関わり

3大蔬菜場「箱崎」
「つるべ井戸」が約450基

下宿屋を経営すれば新たな産業となる

箱崎 接待所
炭鉱の遊びの
中継地点

国鉄バ
宮崎宮

箱崎八幡宮:宗教法人化に伴う氏子組織の再編成がなされている中で、旧来の社家・氏子地域(旧箱崎村と門前町の馬出)の奉仕分担がそのまま継承されている。すなわち、社家では世襲制に一部変動がありながら、飾職・御炊・伶人の職制が維持されており、旧氏子地域の奉仕も、上社家町・下社家町・宮前・馬場・郷口の社領六町が駕輿丁・海門戸・米一丸・帝大前(海門戸三町)、阿多田・小寺(箱崎)、寺中(馬出)の三地区が、それぞれ一戸から三戸までの鐘・太鼓と獅子を受け持ち、行列供奉の中心となっている。

■時代の特徴

- ・ のり工場
- ・ 当時から寺や神社残る「軸線上」
- ・ 多々良川の方は田畑が広がる

■領域

- ・ 箱崎宮～一光寺～多々良川の方へ領域広がる



現在

■海岸線

- ・ 箱崎埠頭
- ・ 海は箱崎宮参道のみ
- ・ 都市高速道路

■町割り

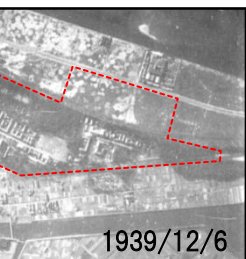
- ・ 唐津街道筋「町家」はほとんど面影なし
- ・ 市場は郊外のマーケットへ移行
- ・ 「本屋・喫茶店・飲食店」減少
- ・ 漁村は「住宅地」へ
- ・ 農村「マンションなどの集積」

■時代の特徴

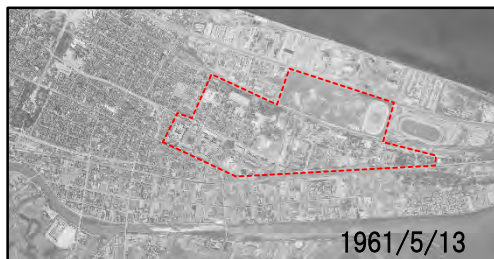
- ・ 住宅地区「マンション」
- ・ 当時から寺や神社残る「軸線上」

■領域

- ・ 図の範囲を超え町が広がる



1939/12/6



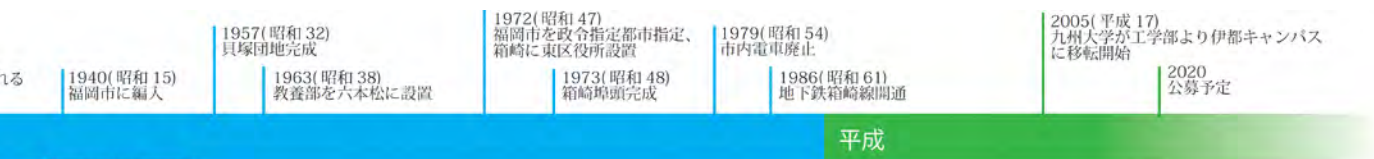
1961/5/13



1987/9/28

ウェブサイト (<http://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1>) をもとに福岡市・九州大学作成

：箱崎キャンパス(2018時点)



第二次大戦(14-20)

車の時代

学生街 下宿・銭湯・食堂
と地域の生活の場

漁業・農業から
「生活のまち」へ

マンションなどが出来
外からの人居者が増える

FUKUOKA
Smart EAST
始動

下宿屋 銭湯 食堂 映画館 本屋	1968年 ファントム 学園紛争 道路閉鎖	九大前電停 古本屋・ 喫茶店が連なる町	次第に 古本屋なくなり 飲食店も少なくなる	今後の箱崎 箱崎の町と共に 発展していく 跡地計画
教養部六本松に 1963 年 箱崎アパートブーム「人口増加」		九大生次第に住まなくなる		
バスが通っており 前バスの駐車場	箱崎 武内通り神社の領域	海苔加工場 箱崎に市場	農地少なくなる	暮らしの場へ 東区をリード
教授が住む 武内通り～ 学生 一光寺横～原田		漁業のまちから 生活の場へ		

(2) これまでの検討概要

① 統合移転事業と箱崎キャンパス等の概要

【九州大学統合移転事業】



平成3年10月に福岡市西区元岡・桑原地区への移転を決定
(箱崎・六本松・原町地区の売却費を、伊都キャンパス整備費へ充当)

【箱崎キャンパスの周辺状況】



【箱崎キャンパス移転スケジュール】



〈移転スケジュール〉

- 平成17・18年 工学系移転
- 平成27年 理学系移転
- 平成30年 文系・農学系移転

【上位計画】（福岡市基本構想，第9次福岡市基本計画）

○都市像

住みたい，行きたい，働きたい。アジアの交流拠点都市・福岡

○基本戦略

- (1) 生活の質の向上と都市の成長の好循環を創り出す
- (2) 福岡市都市圏全体として発展し，広域的な役割を担う

■都市空間構想図



・地域拠点（箱崎等）

商業機能やサービス機能など諸機能が集積した地区

・機能を充実・転換する地区（九州大学箱崎キャンパス）

市街地内の貴重な大規模活用可能地として，大学の移転進捗を踏まえ，新たな都市機能の導入などを検討する地区

【箱崎地区の優位性】

○立地等の条件

- ・ 陸・海・空の多様な輸送手段の集積
- ・ 福岡都心部への近接性
- ・ 地下鉄，ＪＲ，西鉄の駅に近接する高い鉄道利便性

○まちの魅力

- ・ 九州大学が存在した地としてのブランド力
- ・ 筥崎宮等の歴史的・文化的地域資産の集積
- ・ 地域の貴重な緑の空間となる箱崎キャンパス

② 跡地利用将来ビジョン，跡地利用計画の概要

■まちづくりの方針

まちづくりの方針

1

福岡市の持続的な成長に資する

新たな活力・交流を生み出す

福岡都心部に近い大規模な土地利用が可能な土地であり、交通利便性の高い立地特性を生かしながら、「新たな産業・雇用の創出」「広域連携拠点づくり」「交流と賑わいの創出」等を進め、福岡市の持続的な成長に貢献する、新たな活力・交流を生み出すまちを目指します。

2

九州大学が存在した地として、

充実した教育・研究の環境を生みだし、人を育てる

「九州大学」が百年存在した地としてのブランドを生かしながら、「新たな高等教育・研究機関や生涯教育の場の導入」「留学生・研究者等の受け入れ環境の活用」等を進め、充実した教育・研究の環境を生み出し、人を育てるまちを目指します。

3

高度医療施設の立地や高い利便性を生かして、

安全・安心・快適で健やかに暮らす

災害に強い地理的条件を生かすとともに、周辺の高高度医療施設や生活利便施設の集積、交通アクセスの良さなどの高い利便性を生かして、「防災活動の場の創出」「医療・福祉・健康づくり環境の充実」「快適な居住環境の創出」を進め、高齢者や子育て世代、将来を担う子どもたちなど、だれもが安全・安心・快適で健やかに暮らすことができるまちを目指します。

<跡地利用にあたって踏まえるべき視点>

4

千年のまち、大学百年の

歴史文化資源を大切にする

千年以上の歴史を誇る筥崎宮や旧箱崎宿の町家、百年の時を刻んだ箱崎キャンパスなど、箱崎のまち全体が有する「まちの生い立ちの継承」「九州大学の近代建築物の活用」の検討を進め、歴史文化資源を大切にするまちを目指します。

5

次世代の環境技術と豊かな緑を生かして

環境と共生し、持続可能なまちをつくる

地域の貴重な緑の空間であるキャンパス内の既存樹木を生かすとともに、九州大学の先進的な環境技術を活用し、「低炭素」で「水や資源を生かした循環型社会の形成」や「緑・水辺との共生」を進め、環境と共生し、持続可能なまちの形成を目指します。

<まちづくりの方針のキーワード>



■将来構想

1. 多様な機能を持ちながら、まち全体の一体感を創出する

- ・周辺地域との調和に配慮しながら、「土地利用の考え方」に基づいて多様な機能の誘導を図る。
- ・多様な機能の誘導を図りながら、「都市基盤整備の考え方」及び「空間整備の考え方」に基づいたまちづくりを進めることによって、まち全体の一体感を創出する。

2. 周辺地域と調和・連携・交流しながら、一体的に発展する

- ・周辺地域との調和に配慮しながら、まち全体の生活利便性の向上や魅力向上につながるような都市機能の誘導を進め、周辺地域との一体的な発展をめざす。
- ・周辺地域の回遊性や交通利便性、防災性の向上につながるような道路・公園等の都市基盤づくりを進める。
- ・周辺の歴史文化資源と箱崎キャンパス地区をつなぎ、活かすなど、周辺地域の既存施設・魅力施設などと連携したまちづくりを進めるとともに、来街者を商店街や歴史文化資源に導く仕掛けづくりを行うなど、箱崎キャンパス地区内だけでなく、周辺地域も含めた広がりのある交流を促進させる。

3. 持続的に発展し、100年後の未来に誇れるまちをつくる

- ・地域住民、福岡市、九州大学、事業者など、これから多くの人に関わり、知恵を絞りながら、継続的に発展・進化しつづける、持続可能なまちづくりを進める。
- ・箱崎千年、大学百年の歴史を大切にしながら、このまちの発展に貢献された先人達の思いを受け継ぎ、未来の若者達に繋いでいけるような、「100年後の未来に誇れるまち」をつくる。

土地利用の考え方

1 「成長・活力・交流」を生み出す機能配置を進めるゾーン

2 多様な人材を育てる「教育・研究」の環境づくりを進めるゾーン

3 「安全・安心・健やか」に暮らす環境づくりを進めるゾーン

都市基盤整備の考え方

1 まち全体の回遊性や交通利便性を高める

2 既存施設・周辺魅力資源を活かす

3 生活の豊かさや安全性を向上させる

空間整備の考え方

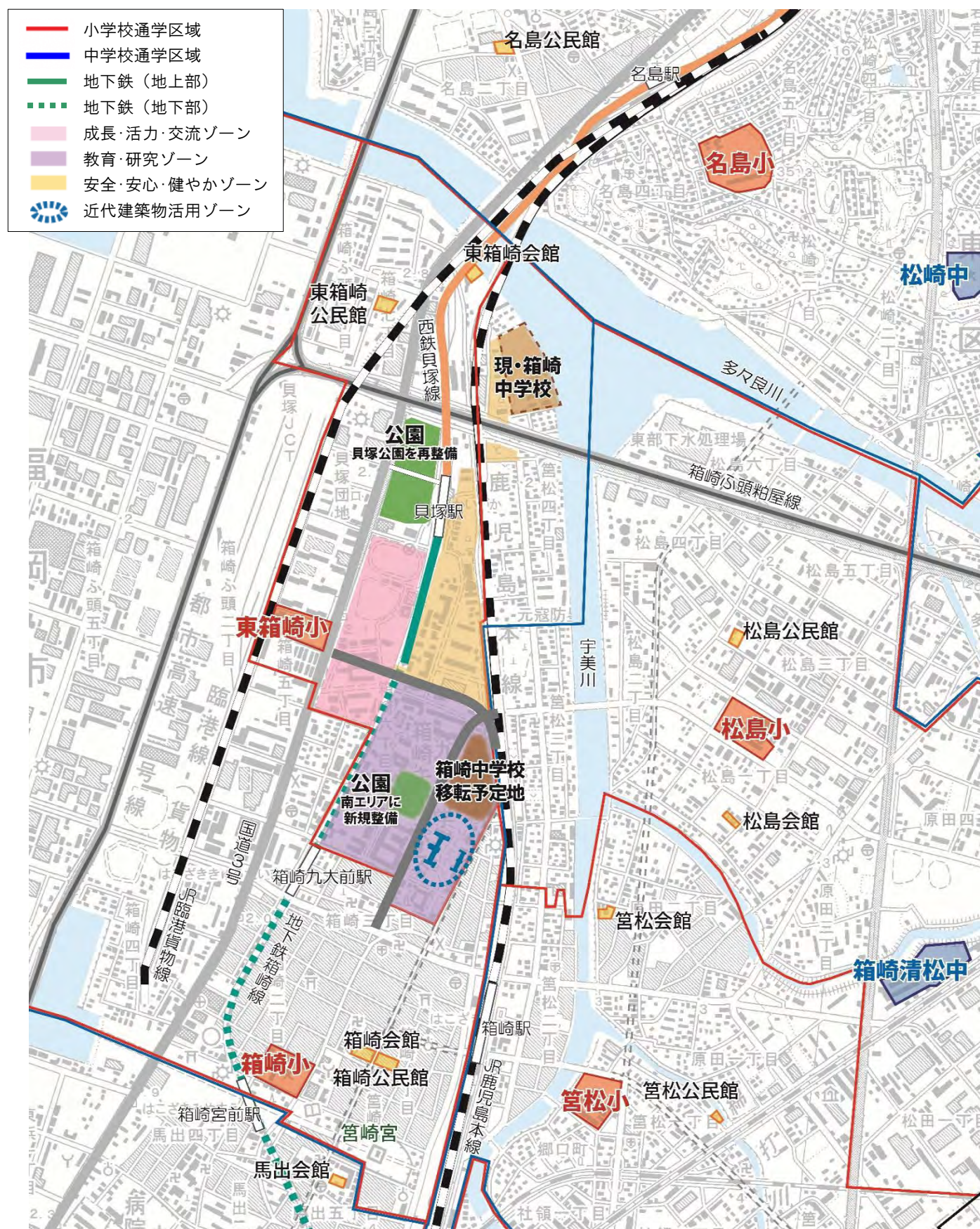
1 まち全体の一体感を創出する

2 「大学100年の歴史と縁」を活かす

3 「100年後の未来に誇れるまち」をめざす

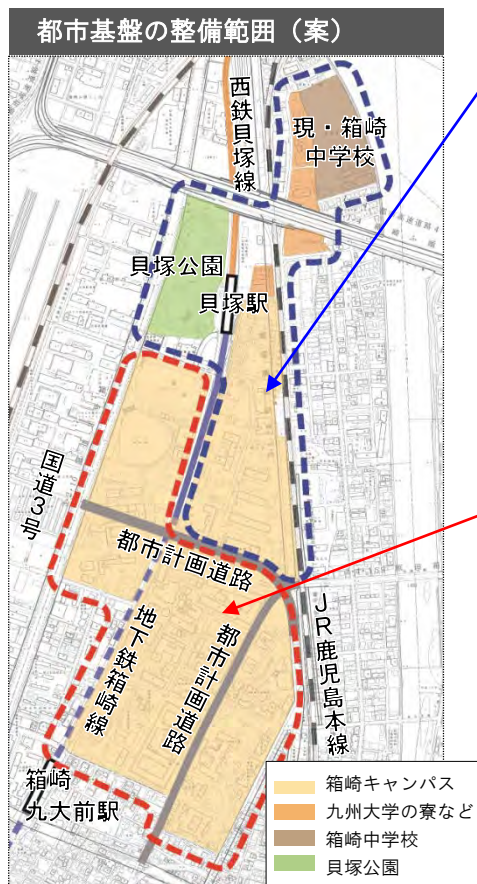
(3) まちづくりに向けた基本方針

① 公共施設配置計画



※跡地等や周辺校区の状況を踏まえながら、教育環境の充実に向けた取組みについて今後検討を行う

② 事業スキーム



北エリア（約20ha）

『福岡市』による『土地区画整理事業』

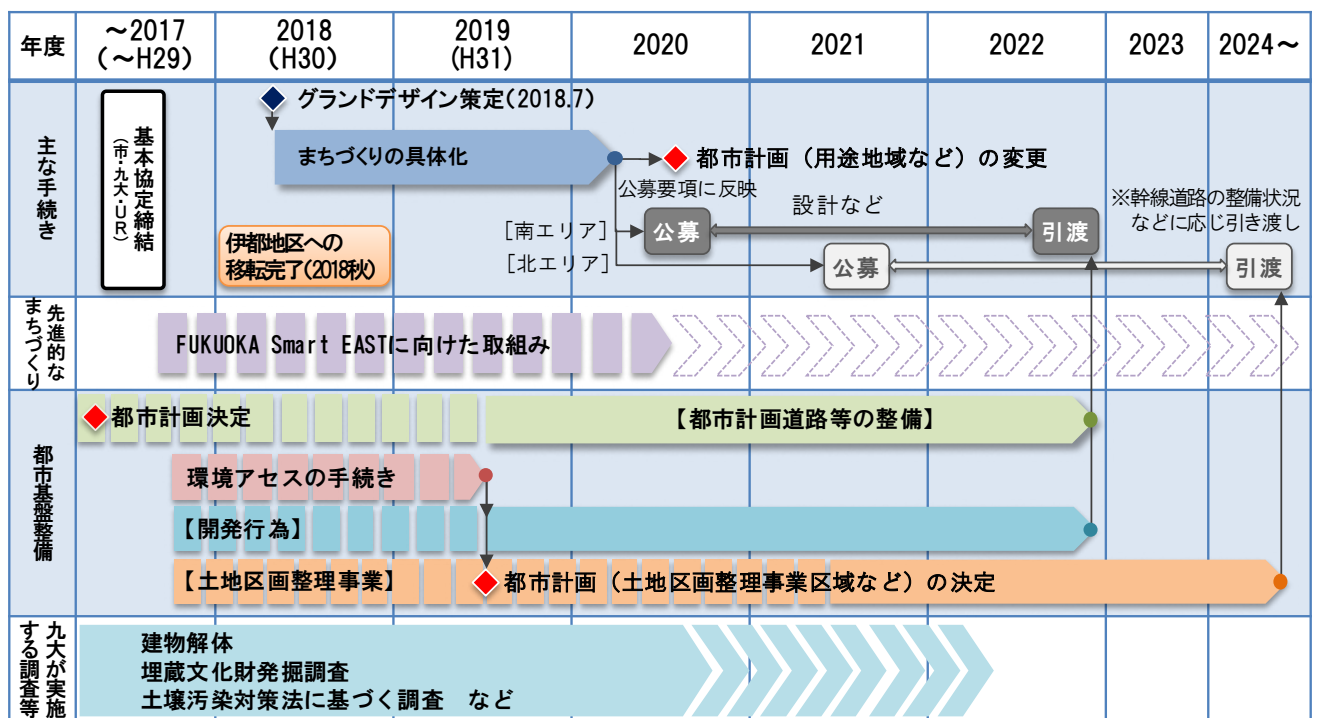
- 貝塚駅周辺を含む脆弱な都市基盤の解消および総合的な交通結節機能の強化
（駅前広場整備，東西方向の連絡性向上など）
- 貝塚公園や箱崎中学校などの公共施設の再配置と移転跡地の活用
- 市有地や公共施設が多い中での市の主体的な関与

南エリア（約30ha）

『UR都市機構』による『開発行為』

- 九州大学は，早期の資金確保と適切な土地処分のため，迅速な都市基盤整備が可能な事業者として，UR都市機構を選定
- 福岡市は，UR都市機構による都市計画道路等の「直接施行制度」を活用

③ スケジュール



※現時点での予定であり，今後の検討により変更の可能性があります

3. まちづくりの全体像

- ・「跡地利用将来ビジョン」や「跡地利用計画」の内容をもとに、「FUKUOKA Smart EAST」の考え方を取り入れ、「まちづくりの基本的な考え方」や都市空間、都市機能など「まちづくりの方向性」を示す。

これまでの検討内容（跡地利用将来ビジョン・跡地利用計画）

まちづくりの方針

- 1 新たな活力・交流を生み出す
- 2 充実した教育・研究の環境を生みだし、人を育てる
- 3 安全・安心・快適で健やかに暮らす
- 4 歴史文化資源を大切にする
- 5 環境と共生し、持続可能なまちをつくる

将来構想

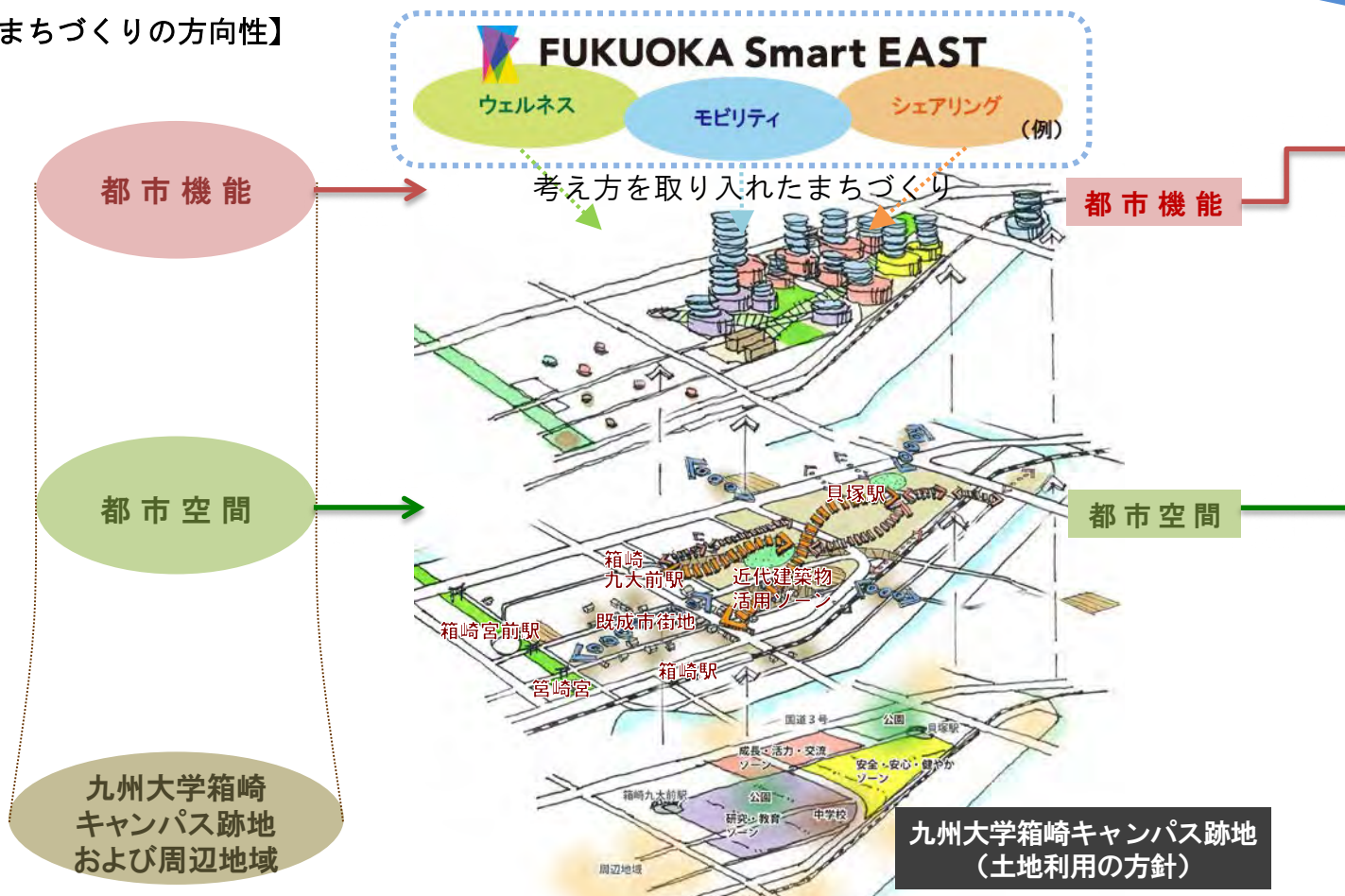
1. 多様な機能をもちながら、まち全体の一体感を創出する
2. 周辺地域と調和・連携・交流しながら、一体的に発展する
3. 持続的に発展し、100年後の未来に誇れるまちをつくる

グランドデザイン

【まちづくりの基本的な考え方】

- 九州大学が百年存在した地としてのブランドと、広大な敷地や交通といった強みを活かし、働く人や学ぶ人、住む人、訪れる人などこれまで以上に幅広い人々が集まり、イノベーションを生み出す新たな拠点を創出する。
- 千年以上に渡る箱崎の歴史や文化も踏まえながら、新たな拠点の創出に向け、イノベーションを生み出すチャレンジできるまちと、幅広い人々を惹きつける高質で快適なライフスタイルや都市空間づくりに取り組み、未来に誇れるまちを創造していく。

【まちづくりの方向性】





FUKUOKA Smart EAST

少子高齢化など、まちづくりの様々な課題を解決しながら、持続的に発展していくため、最先端の技術革新の導入などによる、快適で質の高いライフスタイルと都市空間を創出し、未来に誇れるモデル都市「**FUKUOKA Smart EAST**」を創造していく。

まずは、その先駆けとして、箱崎のまちづくりにおいて取組み、それが全市に広がり、さらに市を超え、より多くの人々に届くよう進めていく。

高質で快適な
ライフスタイルや都市空間

好循環

イノベーションを生み出す
(チャレンジできるまち)

都市機能

- 「土地利用の方針」を踏まえながら、新たな拠点を創出するため、平面・立体・複合的につながる多様な都市機能の誘導を図る。

都市空間

- ここ箱崎だからこそできるまちづくりに向け、まち全体の一体感を創出する空間整備や景観の誘導を図る。
- 安全・安心・快適で健やかな暮らしを創出するため、憩いや安心を感じることができるオープンスペースや歩行者の骨格動線となる「歩の軸」など、ゆとりある空間整備の誘導を図る。
- 周辺地域との一体的な発展を目指し、箱崎千年の歴史に育まれた文化や関係性を大切に、周辺地域との調和・連携・交流を図る。
- 九州大学の地に存在した歴史的資源と縁を活かし、その面影や記憶を継承する。

環境共生

- 循環型社会の形成やエネルギーの有効活用、環境技術の活用など、環境と共生した持続可能なまちの形成を目指す。

マネジメント

- 百年後の未来に誇れるまちづくりに向け、持続・発展していくとともに、良好なコミュニティを形成するマネジメントの仕組みづくりを目指す。